

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月25日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820038

研究課題名（和文）中世後期公家社会の構造的特質と室町殿の「公家化」に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental study concerning the structural special feature of second-half of medieval times Imperial Court society, and "kuge-ka(公家化)" of Shogunate

研究代表者

松永 和浩 (MATSUNAGA KAZUHIRO)

大阪大学・総合学術博物館・助教

研究者番号：90586760

研究成果の概要（和文）：本研究は、鎌倉幕府・江戸幕府という前後の武家政権にはみられない室町幕府の首班（室町殿）の「公家化」という現象に着目し、室町殿権力の特徴、中世後期における公家社会の存在意義や公武関係の特質の一端を探ろうとするものである。ここでは將軍の「公家化」が公家社会に及ぼす影響を解明することに主眼を置いて研究を進めた。具体的には、室町殿の源氏長者独占、名家と呼ばれる階層の公家の台頭という、室町期特有の現象とその背景を分析した。その結果、いずれの現象も義満の「公家化」のみにその原因を求めることはできず、南北朝内乱期に天皇への〈忠節〉を基準に幕府が公家を処遇するなかで形成された求心力構造に規定される部分も大きかった点が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This research explores the special feature of "Muromachi-dono (室町殿)" power, raison d'etre of the Imperial Court society and the relation between the Imperial Court and Muromachi Shogunate in the second half of medieval times. Here, the chief aim was put on solving influence of the phenomenon of "Imperial-Court-izing. (公家化)" by "Muromachi-dono". Concretely, I analyzed the phenomenon and the background of the "Genji-choja (源氏長者)" monopoly and Middle-class aristocrat "Meike (名家)" rising. In the result, any phenomenon clarified the point specified in centripetal force structure, which was formed at the the Northern and Southern dynasties period.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,090,000	327,000	1,417,000
2011年度	850,000	255,000	1,105,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,940,000	582,000	2,522,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本史

キーワード：室町幕府、室町殿、中世後期、公武関係、荘園、源氏長者

1. 研究開始当初の背景

- 中世後期公武関係はこれまで、「幕府による王朝権力吸収」[佐藤進一 1964]の文脈

で理解されてきた。そこでは「王権の吸収」の最終段階として、室町殿の「公家化」が位置づけられた。すなわち、世俗的諸権限を吸収した上で、伝統的公家社会の権威をも吸収した足利義満が「日本国王」として王権を確立したという。これは義満の皇位篡奪計画だったとの説もある [今谷明 1990]。室町殿の「公家化」の評価は、天皇存続の謎という日本史学上のアポリアにも密接に関わる、前近代公武関係論の基本問題なのである。

・ 上記の通説的枠組における最大の問題は、「権力吸収」という帰結を自明視した点にある。幕府による「権力吸収」は将軍権力の発展に不可欠な要素であるとの想定に基づき、議論の前提に措定された結果、それがなぜ南北朝内乱のなかで進行したのか、その原因、政治的・社会的背景の究明が不徹底に終わってしまった。

・ そこで内乱を分析視角の基軸に据えて、この枠組を検証した。論点は「公家領安堵権の吸収」とされる事象、「吸収」の方途とされる武家執奏、そして「公家化」である。その結果、室町期公家社会に特有の室町殿を中核とする求心構造は、①南北朝内乱、②対守護問題という現前の課題に対処するなかで生じた副産物であって、「権力吸収」とは全く別の過程を経て形成された実態が明らかとなった。

・ ①幕府は自らを「北朝の軍隊」と演出して南朝と対峙した [川合康 1995] が、正当性に不安のある後光厳天皇の求心力を強化するため、公家を天皇の下に編成した。その方法は、所領の認定・没収という賞罰を媒介にするもので、室町殿から天皇へと賞罰の決定内容が伝達され (武家執奏)、それに基づき形式的に天皇が賞罰を下した [拙稿 2006・2007・2009]。

②幕府一守護体制と概念化される権力構造を安定化させるため、室町殿は「公家化」を通じて守護との差別化を図った。その方法は、公家と交わり公家として振る舞う室町殿、警備・見物する守護という明確な格差を可視化する空間として朝廷儀礼を利用することであった。そのため、室町殿は所領の没収・認定という賞罰を用いて公家の身体や知識を動員した [拙稿 2008]。

その結果、室町殿を中核とする求心構造が形成されたのである。以上が「公家領安堵権の吸収」「武家執奏」そして「公家化」の内実であり、「権力吸収」との理解は実態とはそぐわないことが明らかとなった。

2. 研究の目的

中世後期日本の最高権力者室町殿は、武家でありながら公家社会の一員としても活動した。これは鎌倉・江戸という前後の武家政

権の首班にはみられない、室町期特有の現象であった。室町殿にとって「公家化」は、幕府一守護体制と概念化される当該期の権力構造において、守護との格差を可視化する、すぐれて政治的な装置であったことを既に明らかにしている。一方で公家社会は、室町殿の「公家化」を包摂しながら再編されることとなった。

本研究では、室町殿という新たな存在を抱え込むことにより形成された、中世後期公家社会の構造的性質と展開を解明する。これにより、室町殿権力の特徴、中世後期における公家社会の存在意義および公武関係の性質の一端を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

次のような研究計画に従って調査・分析を行った。

① 南北朝・室町期の久我家の身分的地位 (源氏長者) および家領に関する資料を収集する。

② ①をもとに、室町期における久我家の身分的地位確立過程、家領経営の実態とその展開を明らかにし、それをもたらす背景、室町殿との関係性を考察する。

③ 南北朝・室町期の万里小路家の身分的地位および家領に関する資料を収集する。

④ ③をもとに、室町期における万里小路家の身分的地位および家領の確立過程・実態とその展開を明らかにし、それをもたらす背景、室町殿との関係性を考察する。

⑤ ②④の成果を総合化し、室町殿を構成要素として含み込んだ室町期公家社会の構造的性質と展開を解明する。

4. 研究成果

①南北朝・室町期の久我家に関する未刊行史料および刊行史料を整理・読解・分析した結果、②久我家と室町殿が源氏長者の地位を確立するまで、南北朝期に久我家が「中院流正統」の地位獲得、足利義満の長者就任の二段階を経るが、前者は南北朝内乱期に公家社会の流動性が高まるなかで北朝に対して〈忠節〉を働き続けたことにより実現、後者は義満を中核とする求心構造の現実化のなかで生じたことを明らかにした。

③当該期の万里小路家に関する未刊行史料および刊行史料を整理・読解・分析した結果、④万里小路家の身分上昇・家領確立は、一般に考えられてきた武家との私的主従関係、足利義満の「公家化」との関連のみに求めることはできず、南北朝内乱期における朝廷への奉公が公武両政権に評価されたためであることが判明した。

⑤については、平成 24 年度の日本学術振

興会「研究成果公開促進費・学術図書」を得て、②④の成果と併せて、著書として公表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 松永和浩、「永松圭子著『日本中世付加税の研究』、『史学雑誌』、査読無、119編11号、2010、pp100-101
- ② 松永和浩、「室町期伊賀国の秩序と諸勢力」、『史敏』、査読無、9号、2011、pp29-59

[学会発表] (計2件)

- ① 松永和浩、「室町幕府権力の確立をめぐるめぐって」、大阪大学歴史教育研究会、招待講演、2011年3月、大阪大学(大阪府豊中市)
- ② 松永和浩、「市沢哲氏の14世紀史研究をめぐるめぐって」、大阪歴史科学協議会、招待講演、2012年3月、クレオ大阪中央(大阪市)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松永 和浩 (MATSUNAGA KAZUHIRO)
大阪大学・総合学術博物館・助教
研究者番号：90586760

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：